

篠津くわんばか!

100号



新建福岡支部の生みの親である「住民・自治・環境学習会」の常設会場であったゆかりの寺である。当初は、九大建築学教室の会議室で行われていたが、新建全国代表幹事の上林博雄先生の講演会を 一行寺 で開催したのがきっかけとなり、以後、建築技術者が参加しやすいように、この中呉服町のお寺で毎回の例会が開かれた。



30周年記念号



▲新建を縁の下で支え続けた新田さん



▲今も昔も話題の中心。初代事務局長の川内さん



▲誰よりも新建を愛する新谷さん



▲出江さんの思い出話を語る2代目岩野さんと沖本さん



▲機関紙編集にも携わった松本さん



▲在任年数最長の4代目卯野木さん



▲現役幹事の内田さん。元気です



▲前事務局長、5代目の伊原さん



一九七九年四月　六四日　伊原さん

になってチラとお顔を見ると、ご本人はただ笑っていらっしゃる。ほんとに皆さん、つき合いが長いというのはいいですね。岩野氏はひとしきりしゃべったあと「今日はスーッとした」と締めくくられた。しかし、川内さんは何と言ったって、初代事務局長だもの、新建の原点と言える人です。何を頼まれても断らない性格もあるそうです。そして断つてないので勝手にやるという傾向も。ああ一話は尽きない。

そして、そろそろ閉店かなという頃、小山先生が帽子をかぶって登場！連絡では欠席になっていたが、やっぱり新建を愛していらっしゃるのね。先生は九大の学生達で、会員になった人達の昔話を、裏話も含めて辛口で語られる。牧さんとか大貝さんとか辞めていった方々の話も出る。小山先生が、ジャンジャンしゃべり出すと、久しぶりにお顔を拝見した松本氏も語り出す。そして伊集院さんとか、ちょっとご無沙汰の人の名も出てくる。

このころには、語り手先輩グループも取材者 Y 子も、かなりアルコールが回ってきて、取材メモの字も読みなくなっている。Y 子の後ろの方で、お店の人があきれている視線を感じたが、止められない。しかし、お時間です。

また会うのはいつだろう。誰かが「今度みんなで一行寺で集まろう」とか言ってたね。奥さん連れで集まつたらきっとおもしろいだろうな。その時は、また2次会を楽しみにお邪魔しよう。

最後にー

以上の話はフィクションであって、登場人物の話および内容の正確性については、誰も責任をもちません。

Interviewer Yuko Hamasaki



100号記念の目玉企画として今回の座談会を催しました。先輩方に本音でざっくばらんに語っていただくために、座談会のまとめ役・聞き手の人選が大切となりました。検討の結果、「新建ふくおか」の人気コーナーだった直撃インタビューの浜崎さんにお願いしたところ、多忙にもかかわらず快く引き受けいただきました。30年間の思い出を語り出すと時間がいくらあっても足りないようでした。尽きないエピソードを楽しくまとめていただいた浜崎さんに感謝。当日忙しい中出席していただいた先輩方にも感謝致します。
ありがとうございました(外)

「新建ふくおか」で振り返る30年

1970年～1979年

新建築家技術者集団
福岡支部1回総会

—討議資料—

住民・自治・環境 學習会

会報

5号 特集：第3回総会報告 1972.5

第1条（目的）

1. 私たちは、住民の要求にもとづいた生活環境のありかたを科学的に追求し、その実現につとめる
2. 私たちは、環境創造の理論と技術の正しい継承・発展をめざし、その蓄積につとめる
3. 私たちは、環境における諸問題を話し合い、交流を深めて、その解決につとめる

とき：19⁷¹年11月10日(水)
6:30～9:30PM.
ところ：早稲田 一行寺



おや? 乗用車から水が.....!
九設連・新建想談会一盛会に開かる。



新建福岡支部の誕生と最初の10年

全国的に散在していた各地の自主的な建築運動を統合して、全国統一組織を作ろうという1年近くに及ぶ準備会活動が実って、1970年12月6日に新建築家技術者集団(新建)が設立されました。福岡でもこの年の1月に、建築技術者、若手研究者を中心にして一般住民をも巻き込んで「住民・自治・環境学習会」という組織が生まれ、新建設立の運動に加わり、翌年の2月21日に新建福岡支部が誕生して今年で30年目を迎えている。最初の5年間は活動内容や組織運営の面で暗中模索しながらも、建築技術、生活環境、子どもの環境、職場環境などの「住民・自治・環境学習会」のスタイルを踏襲して研究会を続けるとともに、建築士講座の開講や新建の代表幹事であった西山卯三氏の講演会を盛大に開いたり、創意あふれるレクレーション活動を繰り広げるなど溌剌とした雰囲気がある一方、全国組織の支部としての組織整備の面で弱点をもっていた。その後の5年間は、組織運営あるいは企画運営について科学的な検討が行われ、全国の中でも優れた組織運営を展開し、その後の発展と拡がりを創り出す土台を固めた重要な時期であった。新建福岡の30年を振り返って、ついつい忙しさに紛れてマンネリに陥る活動を見直すためにも、この時期の組織整備の教訓をもう一度確認することが重要であると思われる。(新谷)

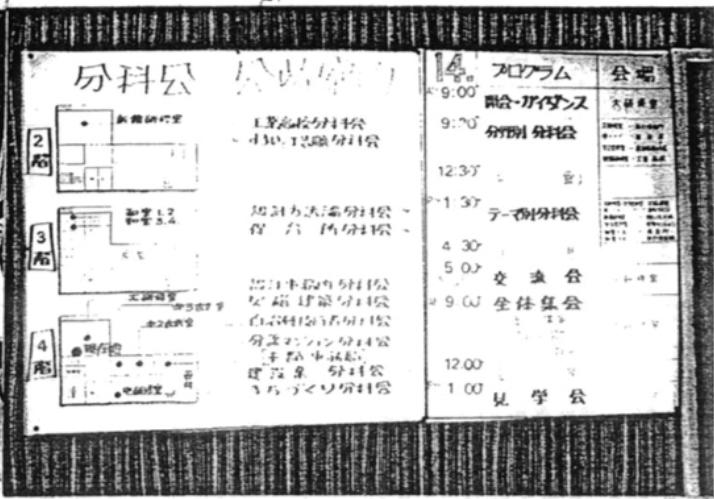
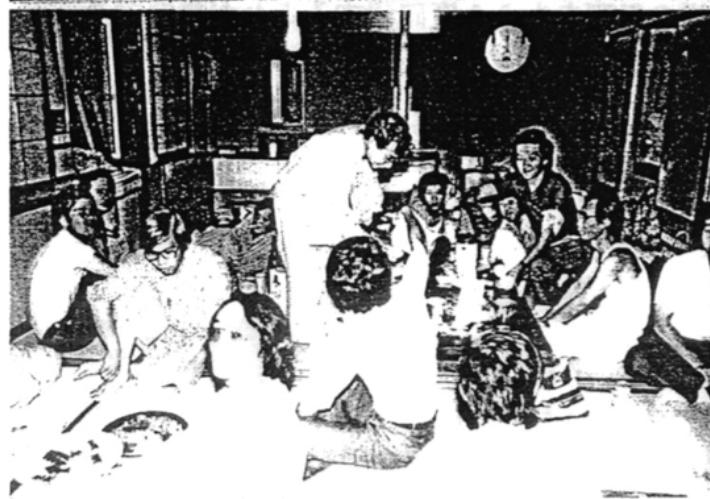
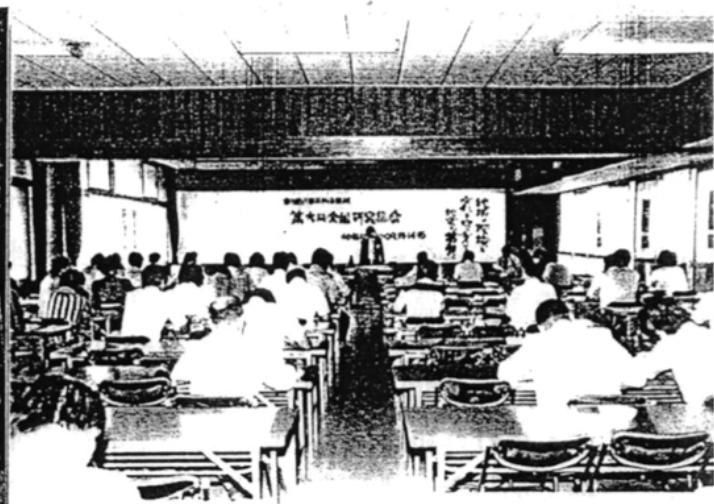
▼幻の新建ふくおか十年史より

主な出来事	1-1	1-2
<p>1970年12月6日 新建築家技術者集団が設立され 多くの建築運動の目的は足りず中止も、長期的には10周年を記念しようとしている。</p> <p>新建福岡支部は1971年2月21日、今口で東京から 内閣官房へ設立された。「日刊島田改進論」 「高齢改善計画」「ドームショック」「災害対応計画」「東京の時代 と地元をいかしめ、この10年の内に新建福岡の使命を 果たす活動を強化せよ!」等々もいよいよ出る重要な性質の 認識とシナジーを目指す年会(1979.11.18)など</p> <p>「新建築設立10周年以降の意義を 日々かんじよう。10年後の年会をつむぎ活動の形を描いて こう」と予針したところでした。</p> <p>各地方の建築運動の全員が統一組織となる会議が開かれた頃 福岡では1970年初め建築関係者の有志の呼びかけで 「住民・自治・環境」学習会が活動の旗をあげていた。 新建築設立までの呼びかけたりて福岡学習会は 積極的で、呼んだあとと自らの運営をしてゆき、 そこから新建福岡が生まれたといえます。</p> <p>その前までもあるかの時、新建築設立以前の 「住民・自治・環境」学習会(以下「住自治」)の活動の 遺産を受けついでいる必要がありました。</p> <p>1980年2月K編集委員会が組成され、以下のことと確認し 各委員の協力的行動にて、新建福岡の10周年の活動力の</p>	<p>記録をしきることでできました。</p> <p>この10年から引出される教訓は半端ない後への 新建築活動するうえで常につけさせていくことを 期待します。</p>	<p>1980.09.08 新建福岡支部 10年史編纂委員一同</p> <p>新建築 ふくおか 十年史</p> <p>新建築技術者集団本部 10年史編纂委員会 1980.09.08</p>



「新建ふくおか」で振り返る30年

1980年～1989年



新建築家技術者集会

第14回全国研究集会

於福岡 '80.09.13-14-15

地域の環境と
未来を守り育む
地道な努力

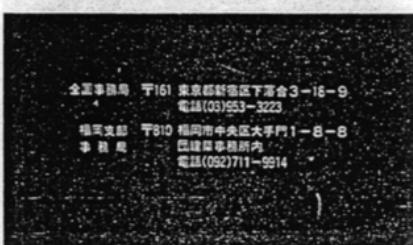


地域の環境と
文化を守り育てる
地道な努力を



新建築家技術者集団

80.09.13-14-15
於：福岡県社会福祉センター
(各分科会、全体集会)
福岡市中央市民センター
(記念講演)



博多へきちゃんなざつせ /

魚はうもうして

姉ちゃんは美しかばい

人情はあつうて

あつたか~い

おふくろん味も

ありますだい。

今年は、新建10周年の年。全国研究集会を福岡で、第9回大会の付託をうけた福岡支部では、「新建10周年記念行事の成功は福岡研究集会の成功から」を合言葉に今燃えています。

すでにご案内のように宿泊会場も1泊朝食付2,750円と格安とし、夜の交流には「土芸庵・博多名物『博多にわが』も準備し、さらに見学会も、文化の力高い福岡ならではのメニューをみました。

本題の分科会も「地域の環境と文化を守り育てる地道な努力を」綱目ながら7月27日すでにフレッシュボル成功裡に終り、全国の皆さんのお福をお待ちするだけとなりました。

とにかく博多へきちゃんなざつせ //

■日程

AM 9:00	PM 1:00	PM 6:00	会場
9月13日 (土)		記念講演 西山卯三 建築と まちづくりを語る	福岡市立 中央市民センター
9月14日 (日)	分野別分科会	テーマ別分科会 交流会 (リーティー)	福岡県 社会福祉センター
9月15日 (月・祝)	全体会	見学会	社会福祉センター 福岡市内と周辺

■参加要領

右の参加申込用紙に記入の上、福岡支部事務局宛に送付して下さい。各支部にてとりまとめられる場合も、必ず申込用紙を送付して下さい。

送付先 〒810 福岡市中央区大手門1-8-8 団建築事務所内

新建福岡支部行 (TEL 092-711-9914)

*申込〆切 9月5日(土) 準備の都合により厳守下さい

参加費：1,000円 (記念講演・分科会・全体集会)

宿泊：2,750円/1泊・朝食付・福岡県社会福祉センター

交流会：2,000円 (立席・パーティー)

見学会：1,000円 (詳細は案内参照)

〔当日受付にて徴収〕

● 著者

全人口の約7割が都市部に集中している現在、分譲マンションは、すでに基準住宅の典型的な一つとして定着したといえるでしょう。しかしそこには、既持管理をはじめとするさまざまな問題がおこっています。

本稿では、マンション問題が詳説して見れる。分譲マンションの複数の問題結合に対するアドバイスを試みて、技術・実践・住み方の問題など、ハード・ソフト両面の実態をドキュメントとして紹介し、問題解決の良好なシステムを探ります。

ここに現われるマンションの苦悩する姿は、「マンションに住む」という生活スタイル自体が、まだ消費者にあることの延長線上に現れるでしょう。しかしながら一方においては、問題を克服してゆくプロセスは、コミュニティ形成への第一歩であるともいえるのではないかでしょうか。

マンションの持つボテンシャルは、さまざまな価値観を持った、さまざまな職業、年齢の人々が混在しているという「共通」にこそあります。そうした中で、1人1人が問題を解決していくなかで、マンションをコミュニティとして運営し始めた時、マンションがその場として機能始めた時、並に実現して住むことから、より後醍醐的に参加し、互いの不足を補う「共生」へと向かい、マンションの成熟期へと近づくのだと思います。

いまのマンションがかかえている悩みをどう解決してゆくかは、技術的な問題もさることながら、住民1人1人の参加の仕方にかかっています。ですから何よりもまず「マンションは育て、つくりあげてゆくものである」ということの再認識こそ、この議論の大大きなテーマであると考えています。

さらにこの建築展は、一過性のものとして終わらせるのではなく、マンション問題について、今後ともみんなで考え続けてゆくとの、1ステップとしたいと考えています。本稿が、マンション問題に関する心を持つ団体、市民の相互の情報交換、交流の場として役立つければ幸いです。

連絡先： 実行委員長 音成 信 (メイズキ: 092-281-4777)

： 7月3日 問題研究会 新田英彦 (团 建築: 092-531-8031)

今回の建築展のテーマ「どうなるマンション」は、マジン

ションに住んでいる人にとって、またそうでない人にとっても身近な問題です。それだけに今回の建築展は一般市民にも広くアピールできるものと考えています。

内容も、企画書にある様に、図面を並べるのではなく、生の情報を組立ててやります。それだけに準備が必要です。

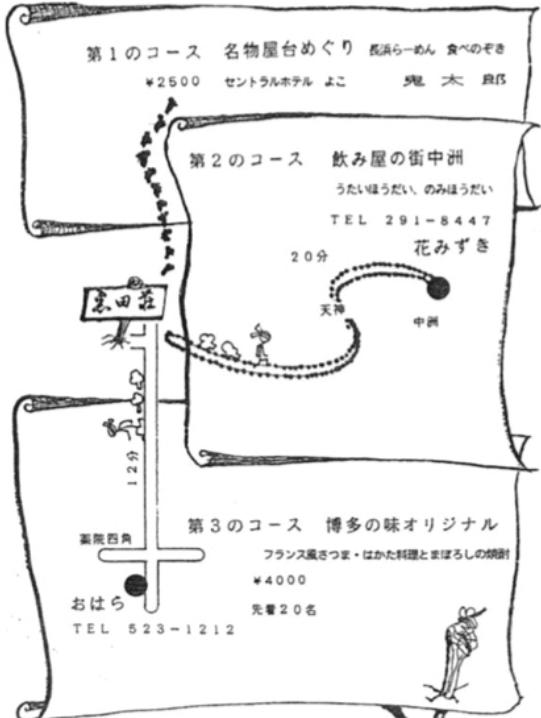
すでに8月が来ようとしていますが、時間は迫り、やることはたくさん。会員の方にも、そして会員以外の方も、貴重の都合が許す範囲で、一緒に考へ、つくりあけてくださることを、お願いします。



「新建ふくおか」で振り返る30年

1990年～2000年

博多でいっぱい夜の3コース



新建福岡支部90年代の活動

90年代は毎月の例会が定着し勉強会見学会、実践報告会、行楽、飲食等会員相互の連携の元、活発に動いた10年だったと思います。私が担当した最初の例会は田主丸の三連水車とぶどう狩り。これは全参加人員4名と惨憺たる人数でしたが、その後各種特色ある例会を開催し、その参加者は徐々に増加しました。今では例会も新建内で市民権を確保したのではないでしょうか。21世紀が近づきつつある今、新建福岡はこれまでの会員に加え、女性会員、若年会員が多く入会しました。又、新建の運営面でもその活動が目立ち始めました。世代交代も順調にいっている様です。これから多くの会員の運営への参加と協力をお願いします。（川崎）



春の恒例行事「花見」より



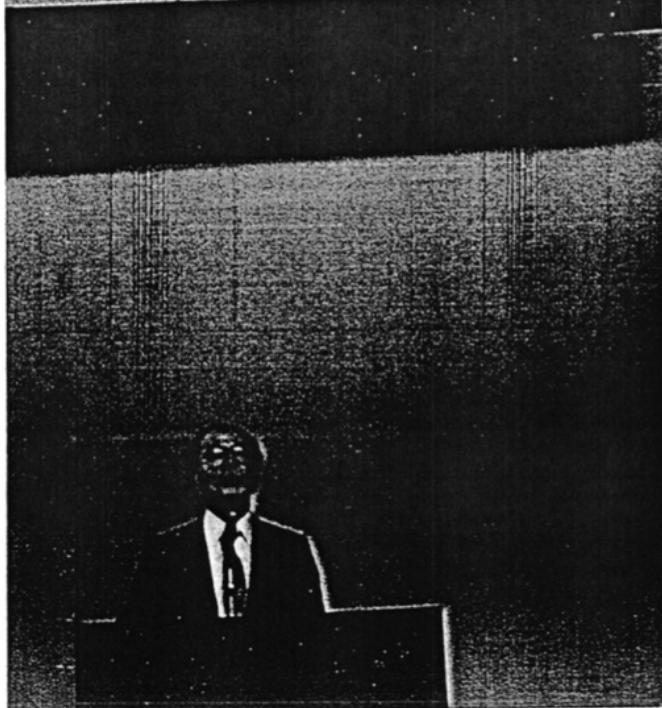
幹事会の様子



「ワインと建築のタベ」より

「英國に住まう。」

主催：新建築家技術者集団福岡支部



6月 講演会
『英國に住まう』
久留米工大教授・河野泰治

日時：1995.07.01（土）18:00-21:00
場所：福岡市女性センター『アミカス』
参加：215名（内会員35名）

河野泰治先生の英国レポート第二弾です。今日は広く一般の方々にも聞いて頂こうと、いつもの建築事務所から『アミカス』大ホールへ会場を移しての講演会となりました。

前回の学校建築についてのお話に加え、イギリスの知らざる暮らいや環境、教育の現状等と少々変わった内容ではありました。どれもこれが開拓的で、楽しいお話をありがとうございました。

次回、第三弾は「英国建築見学旅行」コレしかないですね。



【例会レポート】

5月 研修旅行
高崎山・シーガイア見学会

■1994.5/21(土), 22(日)
■参加者 21名（会員16名、ビザ 5名）



5月例会は研修旅行ということで会員間の親睦と保健を兼ねた、高崎・シーガイアの見学会が実施されました。参加者は会員21名。朝熊沙汰してた方、ビジターの方、そして新会員の方々も参加で、ちょびり新鮮な雰囲気の中、新緑につつまれた高崎の山は私たちにいろいろな表情を見せてくれました。見学コースは、シーガイアの他「国際陶芸エントラントラス」（土公氏）、「日本都市文化交流センター」（大坪氏）、「フォレステビア・芋の森（川崎氏）」と会員の仕事を見学し、絶景かな絶景に宿泊。更に高千穂橋まで足を延ばすかといい盛岡山の内容で、オブシナルツアーアとして、鹿児島空港見学なんでもあり、約4名の方が参加されたそうです。お疲れ様でした。

両国高崎の新名所、シーガイアは、総合保養地整備法（通称：リゾート法）が全国で最初に適用されたリゾート開発です。一つは海側の広大な松の樹海の中に施工費2000億円を投じて計画されたのが、オーシャンドームほか高級かつ贅沢感あふれる施設群。清水建設の高松氏に案内して頂き、達成度の高さは圧巻でした。

完成すれば高崎のシンボルマークとなるであろうホテルオーシャン45。残念ながら制限装置は見られませんでしたが、最上階からの眺めは広大無辺の太平洋が一望でき、「眺めはやっぱり丸かったのだ。」と素直に感動しました。内装工事も途中で、インテリアの様子も拝見することもでき、少し落胆感が混じながら、一行はオーシャンドームへ。

オーシャンドームはシーガイアの代名詞もある施設です。全天候型の開放式ドームの開口部は最大100m×180m、全閣の所要時間は10分、約7000の4枚の屋根から構成されています。両面の豪華なイメージさせるドームの内部は、ほとんどが人工で作り上げられた空間でした。何も作ってしまうハイテク文化のリゾートとして、それとも東洋的で印象的な光景でした。

対照的な光景が高崎にはありました。荒廃樹林、構造、あやの壇坂、城跡、そして雪のダンス・・・雪では自然と文化の香りを満喫させてもらい、想い懐かしくしたがリゾート気分ひいたのであります。



今回の旅行も沢山の方々にお世話になりました。清水建設の高松氏はじめ見学させていただいた施設の皆様ありがとうございました。また、担当幹事の川崎氏及びドライバーの皆様、お疲れ様でした。



【例会レポート】

9月 秋の研修旅行

1995.10/21-22

●参加者 17名
内高橋二郎（隊長）
外 勘
伊豆原芳明
田中木之祐
川崎泰義
鹿瀬典隆之
井上和子
曾根利則
中村打三
（以上会員）
（以上会員外）



●行ったところ・見たところ
・五感高橋の300万本のコスモス園
・ゆうスケーション（設計：齊洋室）
・松山善三美術館
・小国ドーム（設計：葉井実）
・久住高麗花（宿泊したところ）
・レジネイトクラブくじゅう（設計：Team Zoo）
・カングーフーム（みどり高原牧場）
・ハイキング（赤川登山口→久住山→赤川登山口）
・ロードパーク（優良道路）
・展望台（設計：高崎正治）



以下、出席者の皆さんのご感想です。

●雄大な久住の山々を堪能したことでもううかになりました。また、久住山の麓から見た焼けた山地は、幻想的で、登山の疲れも吹き飛んだ気持ちです。今回の研修に参加できることをうれしく思います。ありがとうございました。（中村打三）
●知人の紹介により、深谷合谷に勤務する高橋の私は、初めて断崖の研修旅行に参加させて頂き、大変楽しくすごさせて顶きました。皆さんの建築物を観るするといい、又、健康的に登山されると会員同士をもたらした姿と、勉強になる一泊二日でした。大変ありがとうございました。（高橋正治）

●雄大な久住の山々を見て廻する地図に接した想いがしました。それは、久住山に登る事によって初めて分かる感覚だと思います。また、これまでで体験活動が多かった私にとって、16人の仲間と共に登ることができ、単純ではあるが仲間の出来ない人生の経験を味わうことが出来ました。16の方の中には、私の人生で、二度と違う事のない人もいるかとおもいますが必死に登っている姿と想いでは大切にしたいと思います。（曾根利則）

